

環境白書の刊行に当たって

広島県知事 湯崎英彦



私たちが住む広島県は、南に瀬戸内海が多島美、北に雄大な中国山地を有しており、美しく豊かな自然環境に恵まれています。

本県では、この恵み豊かな環境を将来にわたって守り育てるため、「第5次広島県環境基本計画」(計画期間: 令和3(2021)年度～令和7(2025)年度)を策定し、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みの構築を目指して、取組を進めているところです。

近年、地球温暖化に伴う猛暑や豪雨等の異常気象の増加により、世界各地で様々な気象災害が見られる中、2023年は、世界の年平均気温が観測史上最高となり、グテーレス国連事務総長も「地球沸騰化の時代が到来した」と表明しています。

また、海洋プラスチックごみによる環境汚染への懸念も高まっており、生態系を含めた海洋環境の悪化や海岸機能の低下、景観への悪影響、船舶航行の障害、漁業や観光への影響等、国内外で様々な問題が引き起こされています。

本県においても、地球温暖化対策については、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」に向けて、LED照明等の省エネ家電への買い替え促進や中小企業等における省エネ設備の導入促進といった省エネ対策の推進や、太陽光や小水力発電などの再エネ導入の促進策に取り組んでいるところです。

また、海洋プラスチックごみ対策については、2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロを目指すため、令和3年6月に設立し、現在、130を超える企業・団体が参画している「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(GSHIP)」において、代替素材商品の普及促進やリユース等によるプラスチックの使用量削減、屋外回収拠点の多様化による流出防止対策等、県民及び事業者をはじめとする多様な主体と連携しながら、取組を進めているところです。

この白書では、「第5次広島県環境基本計画」の体系に沿って、本県の環境の現状と課題及びこれらに対する取組などを幅広く掲載しています。

本書が、県民や事業者の皆様の環境に関する理解を深め、考え、そして行動につなげるための一助となることを願っております。

令和6(2024)年9月